

一 盲 象 を 撫 で る

《イサベル女王の時禱書2つ》

野 間 一 正

1.

本年(1995年)正月、百々佑利子先生より賀状と一緒に素敵なお年玉＝国際児童文学会開催地セビーリャ土産を頂戴した。大聖堂(大司教座聖堂)で購入なさったカードと92年のセビーリャ万博並びにバルセローナ・オリンピック記念コインである。そして賀状の末尾に、このカードは何かとお訊ねであった。今迄眼にしたこともない珍しいカードで、大いに好奇心をそそられた。

カードは5枚あり、その各々には、花、鳥、小動物の模様または労働風景や建造物が美しく彩色して描かれ、画面の中央は長方形・白地に抜いてある。そこに活字・現代綴りスペイン語で、片面は、

かに座(6月22日～7月22日)

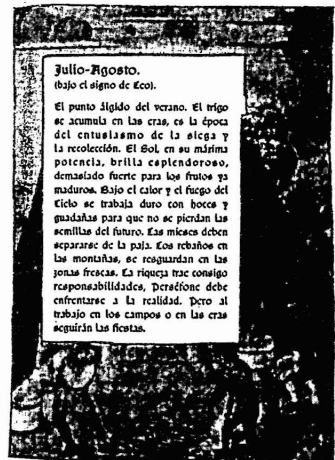
獅子座(7月23日～8月22日)

乙女座(8月23日～9月22日)

山羊座(12月21日～1月19日)

水瓶座(1月20日～2月20日)

と黄道帯12宮の星座の名が印してあり、^(註1)次いで各星座の特質・教訓らしきものが記してある。例えば、「乙女座」は、



獅子座労働の図

「手に入れた成果の価値を判断するには、理性・論理・分析が必要である。黄道帯第6宮は、この方法を用いて人生に立ちむかう。向上し、更に完徳に近づくためには、有益なものと無駄なものとを分析・区別・分離することが必要である。この方法に裏打ちされた精神は、心の奥底に在る官能的な本性を制禦する。以上を具えた乙女座は、自己制禦的、穏健で、気儘を排する性質を有している。乙女座が象徴する処女性は、人生に横たわる様々な些細な事どもを価値あるものへと高めることにより到達したいと希う目的地、無垢である。」

と記してあり、星占いのように見える。もう一方の面には、

6月～7月（かに座のもとに）

7月～8月（獅子座のもとに）

8月～9月（乙女座のもとに）

12月～1月（山羊座のもとに）

1月～2月（水瓶座のもとに）

となっていて、農良仕事をしている図と各時期になすべき農事が記してある（「万物は眠っているようにみえる………」と記された12月～1月のみ例外で、図は農作業ではなく花と昆虫の模様）。例えば、8月～9月（乙女座のもとに）をみると、

「刈り入れの最終時期であり、収穫の実をあげ、収穫物を備蓄するために最善の方策を考える時である。穀物や果実を倉庫に運び貯蔵し、穀類を碾いて粉にし、果実の砂糖煮を作る。大地の娘ペルセフォネ^(註2) Perséphoneは、農業の保護者として人類に贈り物を与えた後、死の世界に戻らなければならない。乾燥が徐々に大地を支配し、葡萄の房はだんだん果汁に膨んで、葡萄の木に活気が漲る。」

こちらは農事暦であることがわかる。更に、カードの下に眼を転ずると、

『イサベル・カトリック女王の時禱書。カテドラル参事会文庫。セビーリャ大司教座聖堂（カテドラル）。』

と記してある。このことから、セビーリャ大司教座聖堂参事会文庫所蔵で、カスティリャ王国女王イサベル1世（在位1474～1504）が所持し、一定の時間に応じて祈りをするのに用いていた「聖務日課」の書（時禱書又は聖務日

禱書とも言う)の一部であることが想像できた。ただし、先出文の内容と祈禱書とはどう考えても結びつかなかった。

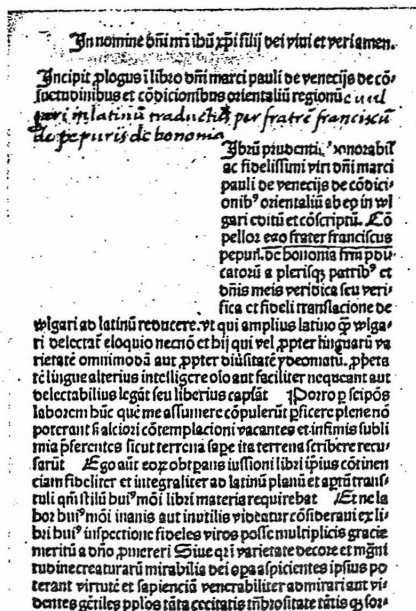
筆者はかつて、ゴシック様式の壮大なこのカテドラルの隣にある、新大陸関係史料の宝庫インディアス総文書館に近世初期文書研究のため通ったことがある。しかし、カテドラル図書館に関しては、コロンブス(クリストバル・コロソ, 1451~1506)の書き込みのあるマルコ・ポーロの『東方見聞録』やカトリック両王(フェルナンド王とイサベル女王)時代の貴族や廷臣たちが嗜んでいた歌を集めた『歌曲集Cancionero』など、大航海者の庶子エルナンド・コロソが蒐集した、多くの稀覯本を保管するコロンブス文庫の名は耳にするものの、その蔵書にどのようなものがあるのか未知であった。

美しいカードを眺めているのは楽しく、想像の翼を拡げることはできても、これだけでは宿題の解決の手掛りはつかめない。

2.

3ヶ月経過した。夢の話と半ば諦めていたスペインに旅することができた。17年ぶりである。大分よくなったとは言え、長年腰痛に苦しんだ身であれば、16時間の空の旅に耐えられるか不安であった。15日間そっくりマドリードのホテルで寝て過ごしてもよいではないか、リハビリ旅行だと自ら言い聞かせると、本来の能転気にかえり、心も軽くなり、成田を飛び立った。

マドリードで4日間静養したのち、北西51キロに位置するエル・エスコリ



コロンブスの書き込みのある
マルコ・ポーロ『東方見聞録』
(ラテン語版、アントワープ、
1485)

アルに赴く。地下鉄モンクロア駅前からバスで1時間、ステップを降りると、眼の前に峨々たるグアダラーマ山脈を背に空を圧する宏壮な宮殿が聳えている。

フェリーペ2世（在位1556～98）は、1557年サン・カンタンの戦においてフランス軍から勝利を収めた記念として、その日（8月10日）が聖ロレンソの祝日であったので、修道院を建立しこの聖人に奉獻することとした。そして、1563年から21年の歳月をかけ、修道院と宮殿を併せた巨大な建造物を完成させた。サン・ロレンソ修道院は当初ヒエロニムス会の所属であったが、同会は19世紀に解散したので、現在はアウグスティノ会が管理している。

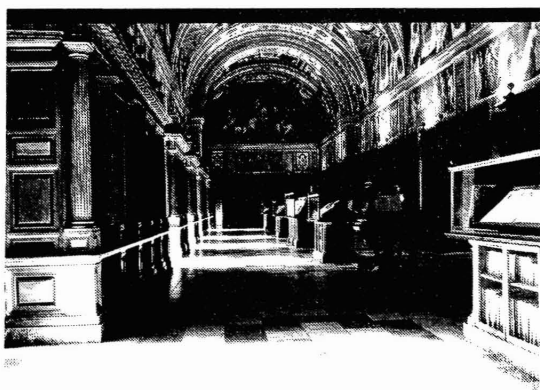
1584年11月、完成後間もないエル・エスコリアルを天正遣欧使節が訪問している。同使節帰国の際舶載された活字印刷機により出版された所謂キリシタン版（イエズス会版）は、幕府による迫害のため、現存するものは32点、そのうち、『ぎやどべかどる』（漢字交り平仮名、1599年）及び『倭漢朗詠集』（日本語・漢文、1600年）の2点が当宮殿の図書館に所蔵されている。

正面から這入り、指示の順路に従って歩を進める。目指す図書館は最後の部屋である。一步室内に踏み込むや、天井を覆うティバルディ作のフレスコ画や両脇の書架の豪華さに圧倒される。今回、若し見ることができれば淡い期待を寄せながら来たのは、1260年頃アルフォンソ10世の御代に作られたスペイン語訳聖書

^(註5)
の手写本であった。

しかし、担当の神父が留守とのことで、残念ながら閲覧は諦めざるをえなかった。なお、帰国後判ったことだが、この図書館にもイサベル女王の時禱書（別本）が保管されていると思

^(註6)
われる。



エル・エスコリアル宮殿図書館

3.

今回の旅で訪れたい場所の第1はメリダであった。ローマ帝国時代ルシタニア（現在のポルトガルの大部分とスペイン西部）の首都であり、ローマ、イスラムの遺跡にみちた町だ。ただ、交通の便がよくないこともあって未だ訪れたことがなかった。あちこちあたった結果、特急「タルゴ」が一日一便あることがわかり（『列車時刻表』は現在発売されていない）、チャンマルティン駅に赴き、列車の座席とパラドール（国営観光ホテル）の予約をとることができた。

メリダは期待を遙かに超えて素晴らしかった。小ぢんまりとした都市でもあり、ローマやイスラムの遺跡が中心部に点在し、その遺跡が現代の生活空間に溶け込んでうまく調和している。修道院を改装したパラドールは、美しい中庭、長い廊下、ゴシック様式の天井をもつ寝室をそなえ中世の雰囲気を残している。

ただ、本テーマに関係ないので先へ進みたい。

次のセビーリャへは、メリダからバスで3時間、グアダルキビール河畔の宏大なバス・ステーションに到着した。公衆電話でホテルを予約し、荷物を預け食事をし、サンタ・クルス街区からカテドラルの前に出たのは、4時40分ごろであった。ヒラルダの塔の脇にある切符売場に行くと、入口は5時に閉まるので早く這入れと言う。私は観光のためではなく（持参のカードを示しながら）、このカードのことを知りたくて来たのだと答えると、そのカードは中の売店で売っているので切符を買えと促す。そうではなく、このカードに書いてあることが果して時禱書のものであるか真偽を確かめたいのだと主張すると、それなら、ここを出て建物に沿い左に廻り最初の入口を這入ればよいと。

指示に従って左に廻り、「コロンブス協会」（この表記の記憶正確ならず）とガラスに書かれたドアを押して中に這入り要件を告げると、チーフjefaが5時に出勤するので待つようにとのこと。待つ間もなくチーフの若い女性現われ、筆者の疑問と手写本を閲覧したいとの希望を聞いた後、(1)このカードの時禱書は本図書館の所蔵である、(2)占いは本時禱書に関係ない、(3)手写本は閲覧できない、と。そして、本図書館の貴重書はここに載っていると、一

冊の本をとり出した。書名は『コロンプス財団（協会）の宝石類^(註7)』と記してある。そのうち本稿に関係ある記述を次ぎに掲げる。

4.

『イサベル・カトリック女王の時禱書』

セビーリャ大司教座聖堂参事会文庫所蔵

ローマ教会慣例に則った時禱書

[14—年]

235葉（14行）

羊皮紙

9.7×7.2cm

当図書館蔵書中最も美しい書物の1つ。美しく彩飾された紙葉は、スペイン・フランドル様式によるミニアチュール（彩飾挿し絵）である。

ミニアチュール

イ) 暦。月々の労務と黄道帯

12宮（1葉～12葉）〔こ

の箇所は前出の農事暦に

あたるが、詳細不明〕

ロ) 聖霊降臨^(註8)（23葉裏）

ハ) 福音史家聖ヨハネ（40葉）

ニ) 聖ルカ（42葉）

ホ) 聖マタイ（44葉）

ヘ) 聖マルコ（46葉）

ト) 受胎告知^(註9)とエッサイの樹^(註10)

（48葉裏～49葉）

チ) 聖母訪問（63葉裏）

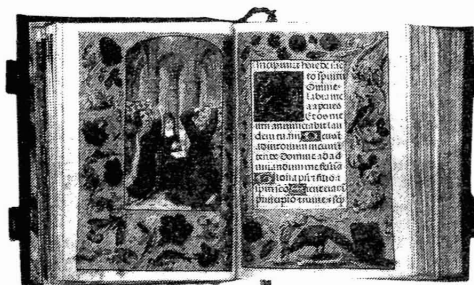
リ) 嬰兒斬首（104葉）

ヌ) 聖母と幼児キリスト

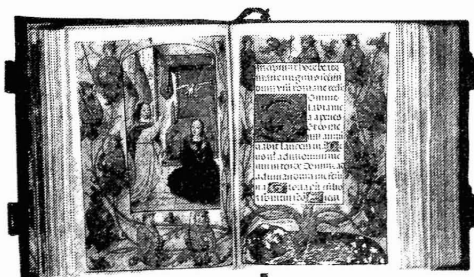
（121葉）

ル) 大天使聖ミカエル

（131葉）



聖 霊 降 臨



受胎告知とエッサイの樹

オ) 使徒聖ペテロと聖パウロ

(132葉)

ワ) 洗礼者聖ヨハネ (133葉)

カ) 福音史家聖ヨハネ (133葉裏)

コ) 聖セバスティアン (134葉裏)

タ) 聖クリストフォルス (135葉裏)

レ) 聖カタリナ (136葉裏)

ソ) 聖バルバラ (137葉裏)

ツ) 預言者ダニエル (139葉裏)

ネ) 教皇 (230葉)

金色を地とし、花と鳥が大部分を占める縁飾りと帯状装飾が本文を囲んでいる。頭文字は金色の地に色彩多種、題名は朱色。

本文

イ) 暦 (1葉～12葉)

ロ) 聖ヴェロニカの祈り^(註11) (13葉～14葉裏)

ハ) 聖十字架の時課 (15葉～24葉裏)

ニ) 聖霊の時課 (25葉～29葉裏)

ホ) 四福音書抜粋 (40葉～48葉裏)

ヘ) ローマ教会慣例に則った聖母マリアの時課^(註12) (49葉～139葉裏)

ト) 〔註13〕

チ) 晩課における死者のためのミサ^(註14) (168葉～229葉裏)

リ) 詩篇 (230葉～235葉)

19世紀の装丁。四方に鉄のついた赤いモロッコ革の表紙。小口は金粉が塗ってあり、背と留め金にとじ糸5本。

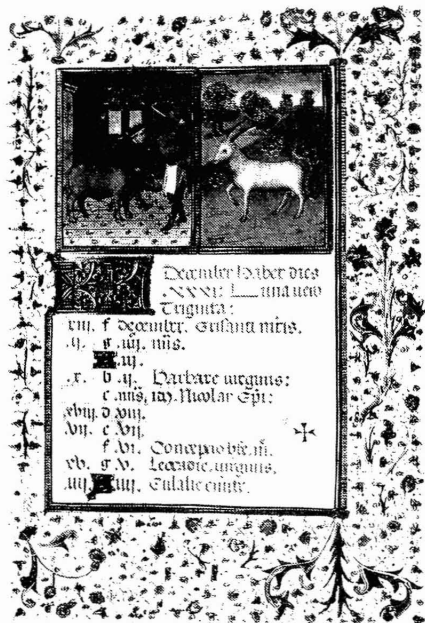
5.

帰国2日前は日曜日、ようやくプラド美術館に行ってみようかという気になった。次の部屋も又次の部屋も、大作がずらりと並んでいるので、息苦しくなる程の圧迫を感じてつい億劫になってしまうのである。予め選んでおいた作品をみた後、館内の売店を覗いてみた。名画がペンダントやカードになって販売されている。絵と文字の組合わされた一枚の不思議なカードに眼が吸

い寄せられた。〔下図の如し〕イサベル・カトリック女王の時禱書と記してあり、12月という文字及び山羊座と労働の図から、一見して暦とわかる〔ベリー公の時禱書の暦と較べてみても、ベリー公の方は文字のみにて、美しく彩飾されたこちらの方が数段豪華〕。同じイサベル女王の時禱書と記してあっても、セビーリャのものとは明らかに異なる趣向だ。実物はどこにあるのかと売子に訊ねると、当美術館のものではなく恐らく国立図書館のものではないかと思う、と答えが返ってきた。

翌月曜日朝10時過ぎ国立図書館にいた。石段を昇り館内左側にあるレファレンスのカウンターで、前日プラドで購入したカードを出してその原本の所在を訊ねると、今来た石段を降りて左に廻り図書館出版部に行けとのこと。その通りに歩を運び中に這入ろうとすると通行止めで、守衛さんが、出版部は4時始業だと教えてくれた。

夕方再び出版部へ赴く。係はここも若い女性。筆者の呈示したカードを見たのち、原本は王宮図書館のものである、と言って、美しい絵の印した一枚の薄い紙を奥より持ち来った。そして、これは当出版部の製作したイサベル女王の時禱書ファクシミリ本の一部であると述べ、原写本に近い色彩を出し、また羊皮紙の感じを与えるためにいかに高度の技術を用いたか、長々と説明し始めた（真実素晴らしい。プラドで入手した美しいカードすら光輝を失う程である）。更に、この時禱書は明日当所に戻ってくるので明日いらっしゃいと。しかしその時間筆者は機中である。ファクシミリ4葉入り書類ファイルを購入し、国立図書館をあとにせざるをえなかった。



6.

^(註15)
アラブの城塞を改築したマドリードの王宮は、1734年の火災で灰燼に帰した。時の国王ブルボン家出身のフェリーペ5世〔在位1700～46〕は、直ちに新宮殿の設計を命じ、38年着工、息子カルロス3世〔在位1759～88〕が64年に完成させた。啓蒙君主カルロスは、新宮殿へ移転するに際し、王室文庫も移した。これが核となつてのち王宮図書館となる。なお、フェリーペ5世は、1716王立公共図書館を設立したが、現在の国立図書館へと発展する。王宮図書館所蔵品は次の通り。

印刷本	250,000
地図	4,000
楽譜	8,000
素描と版画（18世紀の巨匠のもの）	2,000
インキュナブラ ^(註16)	250
手写本	3,000

最も古い写本は12世紀まで遡る。その中で、14世紀アルフォンソ11世が著わした『狩猟の書』（ミニアチュール〔彩飾挿し絵入り〕）は奇書。時禱書のコレクション（8種類所蔵、すべて15世紀のもの）は、傑出しているが、その中でもイサベル・カトリック女王の時禱書は最も貴重な宝である。なお、本書は、イタリア貴族の手に渡っていたのを、カルロス3世の異母兄フェルナンド6世〔在位1746～59〕が王室文庫に取り戻した。

本手写本の本来の所有者は誰であろうか？ 当時（15世紀）



『イサベル女王の時禱書』
「イエス洗礼の図」
このような紙葉全面ミニアチュール
が72枚もある。

の慣例に従えば、3紙葉のミニアチュールに跪く姿で描かれた一人の婦人にこの手写本が献げられたことは疑いない。一方、2枚の紙葉に、アラゴン王国のファン2世〔在位1458～79〕の妻でフェルナンド・カトリック王〔在位1479～1516〕の母フアナ・エンリーケスのために本書が描かれたことを示すと思われる盾形紋章が記してある〔嫁入道具か?〕。フェルナンド王から、順次、妻のイサベル女王、娘フアナ〔狂女〕、孫のカルロス5世〔スペイン王カルロス1世として在位1516～56、皇帝として19～56〕に渡った。伝承は伝承として、本写本の本来の所有者は、上記3名の女王ならびに王妃に帰せられる。そのうち2名は同名のヨハンナJohanna（書中に記されているまま）。結局、カトリック女王〔イサベル〕が歴史上最高の名声をえたため、この写本に名を留めることとなった。^(註17)

さて、その構成についてみよう。先述の如く、本手写本は、王宮図書館の最高の宝で、非常に優れた手写本である。同種本の中でも、装飾紋様において白眉である。

本写本には3,487枚のミニアチュールが描かれており（そのうち72枚は紙葉全面ミニアチュール）、そのうち59枚はテキストの場面を表わすように描かれている。即ち、

暦〔ミニアチュール24葉〕、4福音書の抜粋、聖霊の時課、聖母ミサ、聖母の時課、キリスト受難の時課、死者のミサ、悔悛詩篇〔詩編6、32、38、51、101、130、143〕、種々の祈り、聖人の代禱、計10通り。

残余のミニアチュールは、様々の付随的要素に配分されている。アルカソサス、花、果実、人物、鳥、小動物を描いた伝統的装飾がふんだんに用いられている。

〔ファクシミリ版〕サイズ 20.1×13.2cm 本文 17行

7.

受売りついぞと言っても身も蓋もないが、時禱書の成り立ちとミニアチュールの製作について簡単に述べたい。

時禱書の登場は14世紀である。前世紀まで信徒用祈禱書として用いられていたサルテリオ^(註18)（「聖務日課の詩篇の部」＝全15章の朗読を一週間に割当ててある）に次々と補足が行なわれ、時禱書と称するものに必要なあらゆる要

素が調えられていった。この時禱書は平信徒用のものであるにも拘らず、聖務日課（朝課、讃課、1時課、3時課、6時課、9時課、晩課、終課）に関しては、教会（修道院）の祈りと同じ配分がなされている。

時禱書モデルを構成する基本として次の内容が含まれる。

暦、福音書の一節、「汝に懇願するObsecrote」の祈り、「汚れなきマリア O infemerata」の祈り、聖母の時課、聖十字架の時課、聖霊の時課、悔悛詩篇、連禱、死者のミサ、聖人の代禱。ただし、全く同一内容の時禱書手写本は存在しない。

15世紀はこの種の書物が最も流布した時代である。即ち、国王や貴族の他に、裕福になったブルジョアが注文主になったからである。15世紀末には時禱書印刷本が出現したが、手写本の製作は次の16世紀の間も続けられ、豪華さにおいては最高潮に達する。従って、挿し絵の彩色された装飾は上記写本においてかなり一般的なことであった。

彩飾時禱書製作は、主として、フランス、フランドル、イタリア諸都市に住む平信徒によって行なわれた。その製作には精緻な手作業が必要である。羊皮紙を用意したあと、本は写字生に回され、次いで縁飾り及び頭文字の装飾を行なう写本彩飾師のもとに、そして仕上げにミニチュール、即ち、聖書の場面などを描く彩飾の親方のもとに送られる。

革装丁は、15世紀中頃になって現われる。それ以前においては、（羊皮）紙片は絹またはビロードのカバーで保護されていた。このため原初の装丁のまま現在まで残っている時禱書は稀である。

彩飾された時禱書への愛好はネーデルランドで始まった。15世紀初頭、ブルゴーニュ公家は、時禱書ミニチュールにフランドル派絵画様式を採り入れた。カトリック両王の同時代人皇帝マクシミリアン1世とブルゴーニュ公女マリー夫妻はこの書物に対する愛好の伝統を一層深めた。更にその伝統は、両家の王子・王女の婚姻（即ち、マルガリータ及びフィリップがフアン及びフアナとそれぞれ結婚）によってスペインにもたらされた。

8.

時禱書ミニチュールの歴史を一瞥した。先述の如く、王宮図書館所蔵

スペインの中世は、3つの宗教を信奉する人々が時には争い時には共存し、

Don H non so re d'afreda



 Cuius amantur quies et
 caritatis. In hac maiore et nois
 etiam et in hac toto den eue.

fecta da natureza de nullo tempo.
A nãõ pœr curral daria fã
 marello fôr amã 7 a fã
 ues fãz fôr fôr fôr fôr fôr
 por em non e leal o fôr amã
 eã e muerer quier emuer
 eã fôr fôr fôr fôr fôr fôr fôr
 e omãz fãz em fôr fôr
 7 pœm fôr fôr fôr fôr fôr
 maul eã nã fôr fôr fôr fôr
 7 gaurã fôr fôr fôr fôr
 eã e muerer quier emuer
A eã eã eã eã eã eã eã
 e omãz fôr fôr fôr fôr fôr
 7 eã eã eã eã eã eã eã
 7 quẽs gaurã a nã fôr fôr
 eã eã eã eã eã eã eã
 eã eã eã eã eã eã eã
 fôr fôr fôr fôr fôr fôr fôr
 e omãz fôr fôr fôr fôr fôr
 maul fôr fôr fôr fôr fôr fôr
 7 emuerer quier emuer

スラムから領土を次々に奪回した13世紀、カスティリャ国王アルフォンソ10世賢王（在位1252-94）は、絢爛たる宮廷文化の華を咲かせた。歴史・法律・芸術・天文学からチェス・宝石など広範にわたり多くの書を編纂し、自らも筆をとった。それらに沢山のミニアチュールが描かれている。

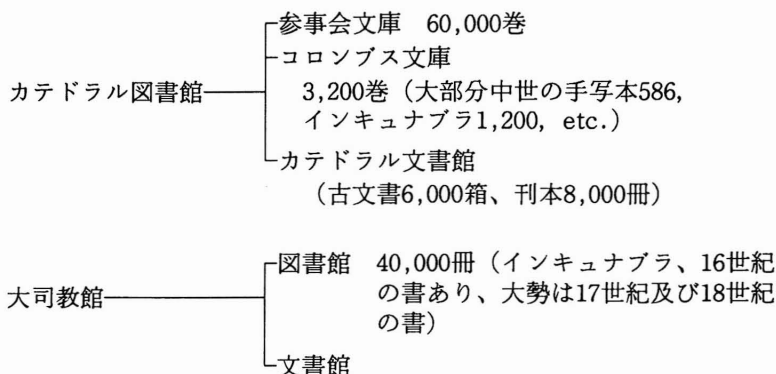
95年も残り十数日となったある日、アルフォンソ10世の『聖母マリア頌歌集』のファクシミル本がスペイン国王より上智大学に寄贈され同大学図書館に保管されていることを知る。早速連絡をとり拝見した。ここに描かれた挿し絵の一部は写真で断片的に見たことはあるが、文字・楽譜・挿し絵が美しいハーモニーをなし、かつ素晴らしい色彩に見とれて時の経つのをしばし忘れてしまった。この手写本はエスコリアル写本T.I. 1で195の頌歌が記載されている。^(註19)中世の生活・風俗・習慣など詳細に表現されている貴重な資料である。この王のまわりにはイスラムやユダヤ人が多く仕えており、挿し絵の中にも描かれている。先のベアトゥス写本などをモサラベ美術と称するなら、これはムデハル（キリスト教支配下に住むイスラム信奉者たち）美術と称してもよいのかな、と素人は無責任に考える。

『イサベル女王の時禱書』がどのような姫君の掌のぬくもりをもっているかに関心がないわけではないが、様々の文化の流れがどのように混り合っているかこのミニアチュールを多彩に色どっているかを追い探すが遙かにロマンにみちている。

【註】

- (1) 他の7宮を記したカードをのち入手。
- (2) ペルセポネー-Persephone又はペルセパッタPersephattaともいい、一般にコレー《Z女》と呼ばれていた。ゼウスとデメーテルの娘で、ハーデースの後。—高津春繁『ギリシア・ローマ神話辞典』岩波書店、1969。
- (3) カタルーニャ人ジョルジ・サヴァール指揮 エスベリオンXX演奏《El Cancionero de la Colombinaコロンの歌曲集》というタイトルで、1992年、フランスAuvidis-Astrée社がCD化した。

(4) コロンブス財団（協会）管理



- (5) すでに活字化されている。新約聖書は、王立アカデミー会報別巻2巻。
 (1)Montgomery, Thomas 《El Evangelio de San Mateo según el Manuscrito escurialense I.I.6. Texto, gramática y vocabulario》 Anejo VII, R.A.E., Madrid, 1962.
 (2)Montgomery & Baldwin 《El Nuevo Testamento según el manuscrito escurialense I-I-6. Desde el Evangelio de San Mateo hasta el Apocalipsis》 Anejo XVIII, 1970. 旧約聖書は、《Biblia Romanceada I.I.8. The 13th Century Spanish Bible Contained in Escorial. M.S.I.I.8. Edited by Mark G. Littlefield》 Madison, 1983.
- (6) 松田毅一『在南欧日本関係文書採訪録』養徳社, 1964。p.159「『サン・ロレンソ図書館』はFelipe IIの蔵書を最初のコレクションとした宝庫であり, Isabela, la CatólicaやCarlos V 妃Isabela, Felipe IIの『日課祈禱書』その他最高の貴重書を所蔵している。」
- (7) 《Las Joyas de la Colombina》 Las Lecturas de Hernando Colón. 500 del Descubrimiento. (Junta de Andalucía. Biblioteca Nacional. Cabildo Catedral de Sevilla.)
- (8) 絵は聖霊降臨の場面で、聖母と11使徒の顔。①Domine labia mea aperies Et os meum annuntiabit laudem tuam (主よ、わが唇を開

き給え。さすれば、わが口は汝を讃美せん)。②Deus in Adjutorium meum intende Domine adiuuandum me festina (主よ、われを助け給え。主よ、急ぎわれを助け給え)。③Gloria Patri et Filio et Spiritui Sancto sicut erat in principio et nunc et... (栄光は父と子と聖霊に。初めにありし如く今も...)。聖務日課の冒頭の祈り。南山大学青山玄神父にご教示いただいた。ただし、訳文は筆者が勝手に改めた。

- (9) 「聖母の小聖務の朝課は、本写本におけるように、『受胎告知』の絵画とDomine labia mea aperies (主よわが口唇を開き給え)という言葉で始まる。時禱書という呼称は、1日の時間に従い分割されるこの聖母の小聖務日課にちなむものである。」『ベリー公のいとも美しき聖母時禱書。解説』p.23, 岩波書店, 1994。
- (10) Arbol de Jesé エッサイの樹; ダビデの父エッサイからイエスに至る系図を樹枝状の絵に表わしたものの。cf. イザヤ書11: 1, マタイによる福音書1: 6~16。
- (11) Oratio beate Veronice
- (12) Hore B. Marie Virgine Secundum usum romae ecclesie
- (13) 140葉~167葉裏に関し言及なし。
- (14) Officium mortuorum ad vespas
- (15) 以下Biblioteca Nacional 《Carpeta. Libro de Horas de Isabel la Católica》を参考にしながら纏めた。
- (16) 活字印刷術の発明以後1500年まで、ヨーロッパで刊行された活字本。
- (17) このような例は、以下を参照されたい。
「ベリー公の時禱書がすべて公の注文で作られたわけでも、生涯、公の手元にとどまったわけでもない」『ベリー公のいとも美しき聖母の時禱書。解説』p.27。
- (18) 〔西〕Salterio, 〔羅〕Psalterium。
- (19) 『聖母マリア頌歌集』の手写本は、フィレンツェ本、マドリード図書館本とエル・エスコリアル修道院本2、計4種ある。後の2本は特に重要。写本B.I. 2 (最も分量多く、全部で423頌歌)と、T.I. 1 (195頌歌)。